

平成27年度に議論された補助金の見直しに係る
改善・提案事項と検討結果について

<検討区分>

○	提案を見直しに取り入れる	△	提案の一部を見直しに取り入れる	×	提案を見直しの参考とする	◆	提案を今後の課題とする
---	--------------	---	-----------------	---	--------------	---	-------------

項目	見直しに係る改善・提案事項	提案者	検討区分	検討結果
申請団体	申請数増加の目標設定	委員長	○	・申請数増加を目指したPRと予算要求
予算	予算額の拡充	委員長、黒添、嶋田	○	・予算要求額の増
補助金仕組み	毎年応募できる機会 テーマ設定しスポット実施の補助金 申請条件を設立後1年以上としては？	委員長 林 黒添	○ △ △	・毎年応募可能 ・テーマ設定型は今後検討、スポット申請可能 ・活動立上(団体立ち上げ予定)は廃止 ・事前相談、説明でカバー
	市が期待しているテーマの補助金 分野を限定しテーマ設定した補助金	橋本 米澤	◆ ◆	・行政提案型の新制度として今後検討 ・行政提案型の新制度として今後検討
申請書類	堅苦しくない募集要項の作成 申請書類の簡略化、簡素化 わかりやすい申請書類	高安 委員長、米澤、上坂 林	○ △ ○	・募集要項、申請書類の全面見直し わかりやすさ、みやすさ、記入例の追加 ・相談の充実
相談対応	相談・案内窓口の設置	委員長、高安	○	説明会、事前相談
周知	チラシの作成	高安	○	・ポスター掲示、チラシ配布(事前・募集時) ・メール配信、個別紹介
	広報しろいの1面を使ったPR	上坂	△	・広報担当課(秘書広報課)との調整 ・広報記事の拡充
	申請団体の掘り起こし	委員長	○	・個別に団体へ紹介、声かけ ・関係機関との連携 市民活動推進センター、ボランティアセンター
審査方法	最高点と最低点のカット 申請額が少ない場合は事務局審査 プレゼンテーション時間の確保	委員長、赤間 赤間 嶋田	× × ×	・審査項目、審査ポイント、採点区分の見直し ・第三者による審査が必要 ・審査の全体時間、他自治体事例もとに据置き
採択団体への はたらきかけ	自助努力による収益向上 活動の継続的な確認	黒添 林、赤間	○ ○	・補助を段階的に減らす仕組み ・市民活動支援課による中間ヒアリング ・公開成果報告会

■ 検討課題とされた提案に対する検討結果

検討課題	議論のポイント	提案者	検討結果
<p>予算と審査の手順の関係は？</p>	<p>①審査（秋）→採択団体決定→予算要求→予算確定 ②予算要求→予算確定→審査（新年度・春）→採択団体決定 ③予算要求→審査（冬）→採択団体決定</p>	<p>事務局 黒添 事務局</p>	<p>③の手順とする。（平成 27 年度と同様のスタイル）</p> <p>【理由】 団体の視点から補助金の使いやすさを優先的に考えると、申請時期、活動期間の長さ等で好都合である。</p>
<p>3年間の継続補助を続けるか？</p>	<p>3年間継続補助の審査が難しい 3年間継続補助がいい場合もある 3年間の継続補助が必要である 委託を目的とする場合、継続性を確保する必要がある</p>	<p>委員長 黒添 嶋田 市川</p>	<p>3年継続補助から、1年毎の補助（同一事業は3回まで補助可能）に見直し、申請機会を3年に1回から毎年とする。</p> <p>【理由】 過去に途中辞退の事例あり（2団体） 団体による3年分の事業計画の立案と審査の両面において難しい面がある。</p>